

28. 急性心内膜下梗塞の臨床的検討

小関秀旭, 山下道隆, 西出敏雄
遠藤伸行, 鈴木 隆, 山口哲生
平井康夫, 松島保久, 大島仁士
(松戸市立)

昭和52年1月から昭和56年11月までの約5年間の急性心筋梗塞107例を心内膜下梗塞(15例)と貫壁性梗塞(92例)に分け, 特に心内膜下梗塞の特徴について検討した。主訴, 酵素値, 血行動態, 冠状動脈造影所見等を貫壁性梗塞と比較した結果, すべて軽症であった。死亡率も貫壁性梗塞では18.7%であるのに対し, 心内膜下梗塞では0%であった。以上より, 心内膜下梗塞の急性期予後は非常に良好であると考えられた。

29. ヒス束心電図検査にて Sinus node Re-entry と A-V node Dual pathway を証明した1症例

羅 智靖, 住田孝之, 鈴木 勝
中村和之 (旭中央)

心房細動のある患者で, Sinus node Re-entry と A-V node Dual pathway の存在が推定される興味ある症例を経験したので報告する。症例は悪性腫瘍と不整脈の多発家系の26歳男性であり, 動悸を主訴として来院した。心電図上心房細動を認めたが抗不整脈剤にて洞調律に回復した後, 通常の方法でヒス束心電図検査を行い, 上記の現象を証明した。その結果, Sinus node Re-entry と A-V node Dual pathway の存在が当症例の心房細動の原因であると推定された。

30. 原発性肺高血圧症の1例

遠藤伸行, 山口哲生, 西出 敏雄
小関秀旭, 鈴木 隆, 平井 康夫
山下道隆, 松島保久, 楠永賀洋子
大島仁士 (松戸市立)
伊藤公道 (国立柏)

39歳男性。主訴, 労作時息切れ, 失神発作。胸部X線像, PAG, ECG, UCG, 心カテにてPAの軽度突出, 右心負荷, 右室肥大, PA弁のe-fslope平低, PA圧の上昇(62/31, 平均41 Torr), 等から本症と診断。経口Hydralazine投与にて, 全肺血管抵抗, 心拍出量に著変なく, PA圧の有意な減少なし。O₂投与にて, 著変なし。経口Diazoxide投与では逆に右心不全が出現し, 継続は不能であった。現在, 労作後のO₂療法のみで, 軽労働に従事している。

31. 高脂血症と Post heparin lipolytic Activity について

32. Rat testis の発育と Steroid 代謝における自律神経の役割

村野 俊一 (川鉄)
永井 克也
(大阪大学蛋白質研究所代謝部門)

生後12日齢~26日齢ラットの睾丸に各種自律神経遮断剤を投与すると, 6-Hydroxydopamine, Atropine, Propranolol にて発育の抑制, Phenoxybenzamine にて発育の促進がみられた。発育の抑制は組織学的には精細管上皮の減少変性であり, Testosterone 代謝に関与するLeidig細胞はよく保たれていた。又この時期に変動する5 α -Reductaseを中心にTestosteroneの代謝を検討したが対照と差がなく, 以上よりラット幼若期の睾丸の発育には性ホルモンとは別に自律神経の関与するcriticalな時期があることが推測された。

33. 非ケトン性高浸透圧性糖尿病昏睡の1症例

瀬谷 彰 (千大)
鈴木 豊 (八千代中央病院)

症例は70歳の女性。肺炎が誘因となり昏睡に至った。入院時, 脱水症状強く, 血糖877mg/dl, 血清Na 157mEq/l, BUN 70mg/dlと高浸透圧状態を呈し, 尿アセトン体は陰性であった。輸液とインスリン療法により, 意識レベルは改善した。経過中, 一側の無気肺を起こしたが気管支鏡下, 喀痰吸引により治癒させることができた。

34. 糖尿病妊娠の管理

鈴木 隆, 松島保久, 西出敏雄
遠藤伸行, 小関秀旭, 山口哲生
平井康夫, 山下道隆, 大島仁士
(松戸市立)
片山純男, 伊沢美彦
(同・産婦人科)

糖尿病合併妊娠はその管理が非常に重要である。松戸市立病院で経験した10症例について検討すると肥満例が多く食事療法により体重のコントロールを厳重に実施することが必要である。児合併症としてはインスリン療法例に低血糖が多く認められた。コントロールの指標としてFBSだけではなく1日平均血糖値を100mg/dl以下